

# 精神障害者と福祉実践 I 2単位

担当教員：青木 聖久

当事者の生の声等を通して、精神障害者のことを理解すると共に、社会福祉実践について学ぶ

## 講義目的・到達目標

### 自分の問題として

現代社会において、精神障害（しょうがい）を有するという事は、決して一部の人の問題ではない。生涯のうちに、5人に1人は精神疾患を体験する、と言われている。そのようなことから、たとえ、自分が精神障害を有したり、その家族になったとしても、胸を張って暮らせる社会こそが、真のノーマライゼーション社会であるといえる。このようなことが、ごく当たり前になる社会を目指し、個人及び社会に対して実践をするのが精神保健福祉士（PSW）である。

### 自分及び自分たちができること

本科目では、精神障害のなかでも統合失調症を中心にして、精神障害者のことを様々な側面から知ることを目指す。精神障害者や家族が、これまでどのようなプロセスを辿り「いま・ここに」いるのかや、いかなる社会的背景のなかで暮らしているのかについて、想像力を膨らませる。また、PSWが、どのような魅力と可能性を有する専門職であるのかについても、第一線で活躍しているPSWの話等を通して、理解を深める。そして、最終的に、「自分がPSWになる・PSWを活用する」等、様々な「自分及び自分たちができること」について考えることを目標とする。

## 講義の構成

### 講義の流れ

大きくは、2つの軸で展開する。1つ目の軸は、精神障害者理解である。これについては、障害特性と人としての一般性、日本における精神障害者の沿革、自立についての考え方等を講義する。次に、そのことを深めるために、精神障害を有する本人、家族等をゲストに迎え、体験談等を話してもらおう。2つ目の軸は、精神障害者及び家族、さらには、社会に対しての社会福祉実践の理解である。まずは、担当教員からソーシャルワーク等の実践的な話をする。その話をふまえ、PSWとして活躍する実践者からの話、及び担当教員とゲスト講師とのトークや質疑応答等で理解を深めていく、というものである。

1 「精神障害をもって暮らす」ということについて、講義を通して想像する

2 精神障害を有する本人や家族の話聴くことによって、追体験をする

3 グループ討論を通して、「自分及び自分たちができること」について考える

4 社会福祉実践について、講義を通して理解を深める

5 魅力的な社会福祉実践をしている支援者の話を通して、社会福祉の魅力と可能性を探る

### 講義のポイント

まずは、「知る」ということが大切だと考える。だが、講義で一方的に伝えても、「知れたようなつもり」で終わってしまう。そのことから、一つの講のなかに、必ず質疑応答を入れるようにする。また、多彩なゲストを迎えることも、本スクーリングの特徴である。授業では、例えば、精神障害を有するゲスト講師の場合、精神疾患の発病時のこともさることながら、その人が、元々どのようなことを志しており、いまの趣味は何か、のように、「ビープルファースト」(まず、人が先にあって、障害はその一部)という捉え方を重要視する。これらを通して、障害の有無を超越して、最終的に、「人間とは素敵なものだ」と感じてもらえることを目指したい。

## 受講するにあたって

- ①事前学習のすすめ  
下記の参考図書を読み、受講生の「いまある現状のなかで、自分ができること」について、事前に考えておくことが望ましい。
- ②参考図書  
青木聖久『第3版 精神保健福祉士（PSW）の魅力と可能性 — 精神障害者と共に歩んできた実践を通して』やどかり出版、2015
- ③評価基準  
基本的には、科目修了試験の内容と出席による。ただし、本科目では、グループ討論を重要視している。そのことから、グループ討論の講の出席は必須として位置付ける。
- ④より学びを深めるために  
日本における地域精神保健福祉活動の草分け的存在である「やどかりの里」(埼玉県)や「べてるの家」(北海道)のこを調べ、学びを深めてもらいたい。一方で、社会経験を活かした社会福祉実践への志向として、次の図書をご覧いただきたい。青木聖久・杉本浩章編『新・社会人のための精神保健福祉士』学文社、2014。